



キャリア教育 ちょこっと研修 その26

『キャリア教育の指導計画、指導内容、評価規準、評価方法の研究に向けて』 ～生徒のキャリア発達の特徴は?～中学校編

「ちょこっと研修 その25」で紹介したように、本校はキャリア教育の指導計画、指導内容、評価規準、評価方法などを開発していくことになっています。それにあたって、下記の3つのことが大切であると思います。

- ① 生徒の発達段階の特徴を把握すること
- ② 生徒の現状をしっかりと把握すること
- ③ 生徒が到達してほしい(具体的な)目標を明確にすること

今回のちょこっと研修では、①の生徒の発達段階の特徴について、文部科学省が、「キャリア発達の見点から各学年の生徒を理解するうえでの参考資料、各学年での目標設定の際のたたき台として活用するため」に整理したものがあるので、紹介します。

＜中学校段階におけるキャリア発達の特徴の例＞

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さや個性が分かる。 ・自己と他者の違いに気づき、尊重しようとする反面、自己否定などの悩みが生じる。 ・集団の一員としての役割を理解し、それを果たそうとする。 ・将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解しようとする。 ・学習の過程を振り返り、次の選択場面に生かそうとする。 ・将来に対する漠然とした夢や憧れを抱いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言動が、他者に及ぼす影響について理解する。 ・社会の一員としての自覚が芽生えるとともに、社会や大人を客観的に捉えるようになる。 ・体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。 ・よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出ししていくことの大切さを理解する。 ・将来への夢を達成するうえでの現実の問題に直面し、模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進めようとする。 ・社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。 ・係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かそうとする。 ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。 ・将来設計を達成するための困難を理解しそれを克服するための努力に向かう。

(文部科学省「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引き」平成18年)

このようなキャリア発達段階にある中学生期においては、「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」「興味・関心に基づく勤労観・職業観の形成」「進路計画の立案と暫定的選択」「生き方や進路に関する現実的探索」が重要な課題となる。各中学校においては、これらを基盤として、生徒や地域の実態を踏まえ、学校のこれまでの取組などを生かしながら、「基礎的・汎用的能力」に示される4つの能力(「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」)それぞれについて具体的な目標を設定していくことが必要である。(文部科学省「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」平成23年 第5章第3節)

(文責 嶋田暢也)